



Title	電子環境における新しい図書館の役割
Author(s)	竹内, 比呂也
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/14155">https://hdl.handle.net/11094/14155</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 電子環境における 新しい図書館の役割

---

竹内 比呂也

千葉大学アカデミック・リンク・センター長,  
附属図書館長, 文学部教授

# 大学図書館が閉鎖される

---

研究との関係でみた大学図書館

# 大学図書館の閉鎖

- 2011年秋にJohns Hopkins大学のWelch図書館(医学図書館)が閉館となった。
- 1日平均100名程度の入館者
- 貸出は1日平均40冊程度

# Welch図書館だけの話ではない

- Ohio州立大学でもビジネススクールの図書館が閉館となっている。しかし、一方、中央館は100億円かけて大改修が行なわれている。
  - 予算削減、職員数の減少などの影響をうけて、サービスポイントを減らすというのは、北米の研究図書館に共通して見られる傾向である(ARLの調査レポートなど)

# 「大学図書館機能の再定義」

(University Leadership Council, 2011)

- コレクションサイズは急速にその重要性を失っている
- 伝統的な図書館の数値的指標は学術的なミッションにとっての価値を計るものにはならない
- ジャーナル経費の上昇は、出版の代替モデルの必要性を示している
- 図書館の代替となるサービスへの簡単なアクセスが実現している
- 伝統的な図書館サービスの需要は減少している
- 利用者の新しいニーズは予算、組織面での広がりを求めている

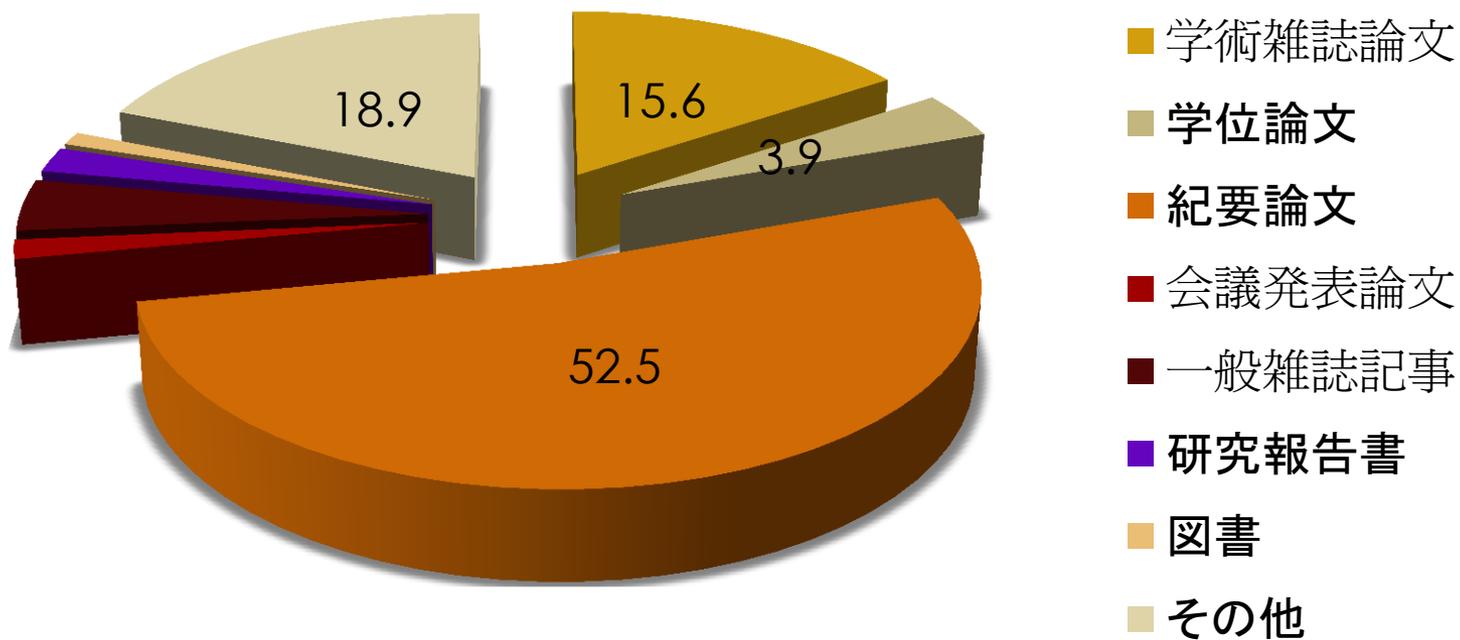
# 「研究」と大学図書館

- 「電子ジャーナル」の普及は、「図書館」の可視性を著しく低下させた
    - 非来館型利用の増加
    - ILLの劇的な減少, 質的变化(REFORMの成果)
    - この現象は電子ジャーナルの購入経費が確保される限りは続く(しかしこれは怪しい?)
- ⇒ 研究に関しては、「研究成果としての学術情報の流通のマネージメント」という方向しかなくなる

# 大学からの研究成果発信は 変化しているか？

- 電子情報環境下における情報発信者の多様化
  - 機関リポジトリによるオープンアクセス
    - 機関リポジトリをつかった「紀要」の電子化は定着したと言ってよい。
    - これはむしろ人文社会科学領域に大きなインパクトを与えるはず。

# 機関リポジトリ コンテンツの内訳



# E-Scienceなどの流れに日本の大学図書館は対応できるか？

- 学術情報流通の急激な変化に日本の大学図書館は全くついていけない。
  - Digital Humanities?
    - 研究資源の電子化に対して図書館は完全に蚊帳の外？
  - E-Science?
- Data Librarian ?
  - Oxford大学のBodleian図書館のポスト
  - Digital Asset Managementを含む電子化システムの維持管理

電子書籍はどのようなインパクトを与えるのか？

---

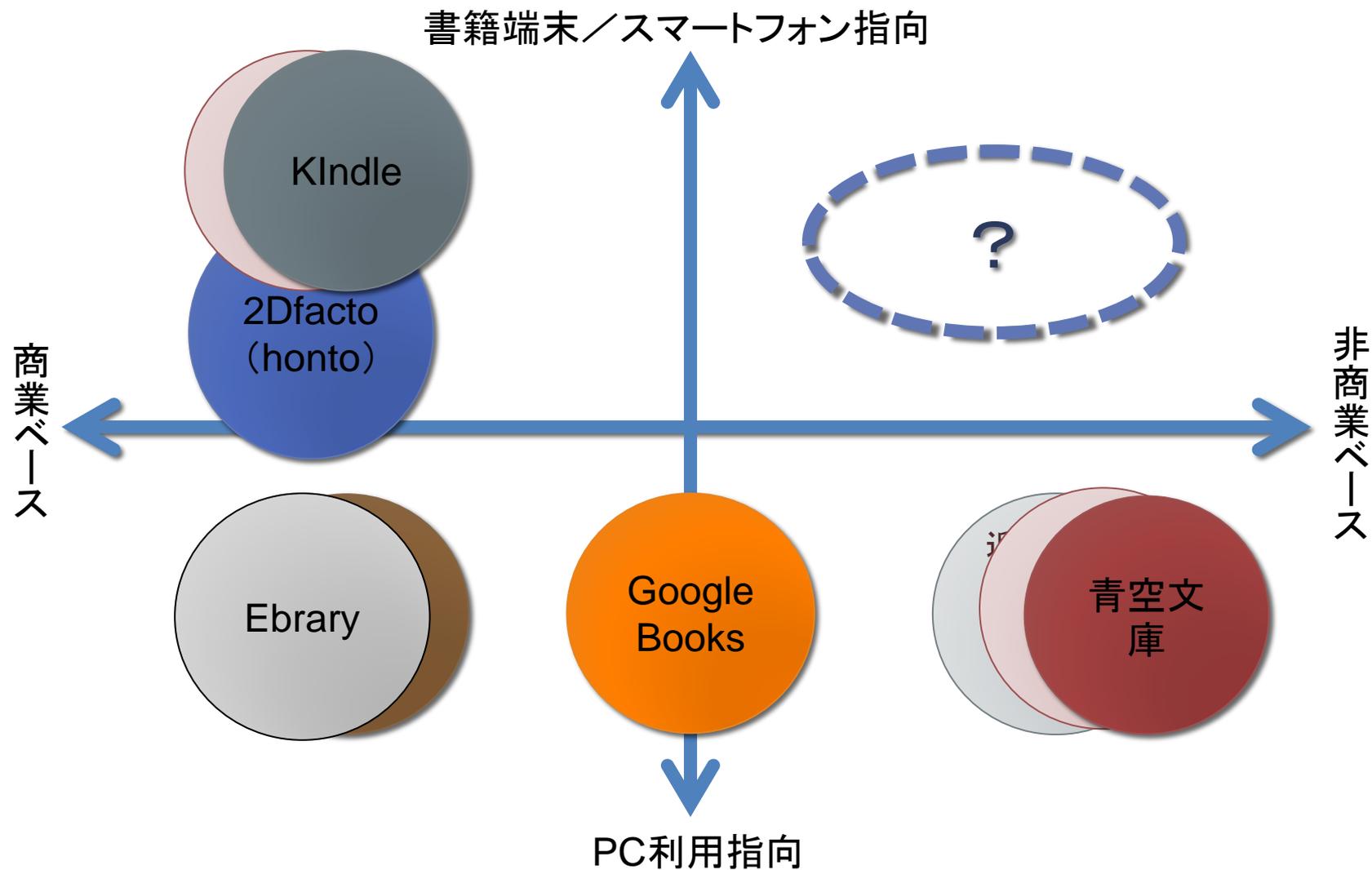
# 商業ベースの図書館向け 電子書籍提供の例

NetLibrary	学術系21万タイトル以上含むコレクションで、日本・欧米の優良出版社多数(500社)が参加。和書は全体の1~2%。閲覧は1タイトル1ユーザ。価格はタイトル単位の買い切り。法人契約のみ。1冊の価格は紙より高い? 和書に関してはコンソーシアム契約の価格体系なし。
Ebrary	STM中心、450社17万タイトル以上、日本語のコンテンツはない。ProQuestが買収。複数ユーザによる同時アクセス可能。
SciVerse ScienceDirect電 子ブック	おおよそ10,000タイトル。買い切り。大学の規模による価格設定。複数ユーザによる同時アクセス可能。
JapanKnowledg e	『日本国語大辞典』等のレファレンスツールに加え、『東洋文庫』(692冊)『新編日本古典文学全集』のフルテキストが提供される。会費制。

# 非商業ベースの電子書籍提供の例

Hathi Trust	電子化された文化資源の長期保存とアクセスのために設置されたもの。会員制(Partner)。アメリカのコンソーシアム、大学が参加。1000万件以上の電子コンテンツを持つ。図書は530万件。
近代デジタルライブラリー	国会図書館による明治・対象・昭和前期のデジタル画像を収録。現在39万冊収録(うち、web公開は17万2千冊)
青空文庫	著作権が消滅した作品を中心に1万タイトルが公開されている。ボトムアップ的構築。
Google Gooks	図書館プロジェクトとパートナープログラムにより、図書館蔵書や出版社提供コンテンツの電子的提供。日本からは慶応義塾図書館が参加。オンライン購入と図書館の蔵書目録がリンク。1200万冊をスキャン済みと言われる。

# 電子書籍の見取り図



# 見取り図から考えること

- 電子書籍端末≠電子書籍
- コンテンツ数に見合わない提供環境の乱立
- 書籍端末指向は新しいー多くが「コンシューマー」指向：個人が購入することを前提
  - 図書館的提供モデルとの乖離？あるいは図書館では全く対応できない？
- ビジネスモデルの未成熟
  - 紙の本を1冊ずつ売ると同じビジネスモデル vs. 電子ジャーナル型ビジネスモデル
  - 複数利用者の同時利用を認めない (NetLibraryモデル)

さらに, , ,

- コンテンツの紙からの完全な脱却の可能性
  - 全く新しいフォーマットとしての電子ジャーナル論文や図書の登場

「未来の論文」(エルゼビア)

「わくわく理学」(京都大学学術出版会)

「Principles of Biology」(Nature)など

# 電子書籍は図書館に何をもたらすか

## • 利用行動の変化

### • → 図書館蔵書の価値の相対化

- 低廉な価格で迅速にコンテンツが入手可能となれば誰も現物貸借など使わなくなる。
- 低廉な価格で迅速にコンテンツが入手可能となれば誰も予約をいれて長い間待つことはなくなる。
- ★これは決して悪いことではないはず！
- ★★しかし、人間は本当に「読書」スタイルを変えることができるか？

# 電子書籍は図書館に何をもたらすか

- 「蔵書構築」の変化, 「所蔵」概念の変化
  - Patron Driven Acquisition
    - たとえば, 「多くの電子書籍をいったん利用可能にして, 一定数の利用があったものだけを購入する」

必要な知識の入手先という意味では、大学と書店の重要性は同時並行的に低下している

- 吉見俊哉「大学とは何か」(2011)

# 学習と大学図書館の関係

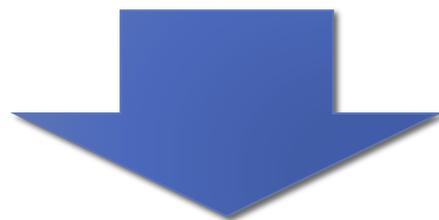
---

大学図書館の新たな可能性

TEACHINGからLEARNINGへ

---

知識の習得



知識の習得

+

知識活用能力の習得

# 研究から「学習」へのシフト

- 大学院重視の高等教育政策から『学士課程教育の構築に向けて』（中教審答申、平成20年12月）への転換
  - 学習活動の活性化が大学にとっての喫急の課題
    - 「学士力」: 課題解決能力の重視
    - 「単位制度の実質化」: 事前、事後学習の重視
    - 「教育方法の改善」
    - 「初年次における教育の配慮」
  - 日本の場合、これまでこれを十分にやってこなかったの  
で、開拓の余地は大きい（新制大学の理念は60年経っても定着していない。例えば「単位制度の実質化」議論）

# 「学士課程教育の構築に向けて」: 学士力(中教審答申)(2008年12月)

- 専攻分野の基礎知識の体系的理解
- 汎用的技術
  - コミュニケーション・スキル
  - 数量的スキル
  - 情報リテラシー
  - 論理的思考力
  - 問題解決力
- 態度: リーダーシップ, 倫理, 社会的責任
- 総合的な知識, 技能, 態度の活用と創造的思考力

# 大学図書館と学習：回顧

- 学習・教育のサイドから図書館が果たすべき役割についての発言は希薄であった
- 情報リテラシー教育への関与等，総合的に見れば図書館は学習・教育支援に関わろうとしてきた（が，基本的には教育サイドからは無視されてきた??）
- 1990年代になってようやく教育改革の機運が高まり，2000年代の教育GPで図書館を取り上げたものが脚光を浴びた（ラーニングコモンズ）

# 「大学図書館の整備について」

(審議のまとめ)」(2010年12月)

## に描かれるこれからの大学図書館

- 学習支援および教育活動への直接の関与
- 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
- コレクション構築と適切なナビゲーション
- 他機関・地域等との連携及び国際対応

# 学習支援

- ラーニングコモンズ
- 図書館員による自学自習の支援
- 院生や学部上級生による指導体制の組織化
- ライティングセンター
- 学生や教職員の知的交流活動の活性化

# 教育活動への直接の関与

- 情報リテラシー教育
- メディアリテラシー教育
- 情報リテラシー教育のためのカリキュラムの共同開発, 図書館職員の教員兼務
- チュートリアルシステムの開発
- 教材作成への関与, 教材の整理・提供 (E-learningの文脈)

# アカデミック・リンクという構想

---

# 千葉大学附属図書館, アカデミック・リンクの建物構成

書庫・静寂な閲覧席

書庫的空間

研究開発, コンテンツ・ラボ, ティーチング・ハブ

厚生施設  
(23年度改修予定)

現図書館新館  
(愛称: K棟)

現図書館旧館  
(愛称: K棟)

東棟(増築)  
(愛称: I棟)

書店  
23年度  
工事予定

南棟(増築)  
(愛称: N棟)

アクティブ・ラーニング・スペース

かたらいの森



<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 敷地面積 607 グレーティング面積</li> <li>○ 下階床面積 807</li> <li>■ 築年数 1976</li> <li>▲ 別途グレーティング</li> <li>□ 面積 600×0.1, 900×0.600</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通行禁止</li> <li>○ プレース設置を示す</li> <li>□ 開放ドレンを示す</li> <li>⊕ 距100φ</li> <li>⊕ 丸線を示す</li> </ul>	<p>千葉大学施設環境部</p> <p>千葉大学(西千葉)附属図書館新館その他工事</p> <p>年月 平成 年 月</p> <p>図面番号</p>	<p>株式会社 建築設計事務所</p>	<p>03580-010 千葉大学(西千葉)アカデミックリンク新館その他工事設計図書</p> <p>1階平面図</p> <p>縮尺 1/200</p> <p>図号 G-28</p> <p>28</p>
---	---	--	---------------------	--

# 千葉大学におけるこれまでのとりくみ

## • リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

★「授業資料ナビ」(パスファインダー)

- 図書館資料と授業を結びつける
- 普遍コア科目を中心に73科目(2011年度)

★ポッドキャスト

★CURATOR

## • 総合メディアホール(仮称)構想

図書館資源とコンピュータ資源のより密接な連携

# アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革

目的:「考える学生の創造」  
「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ学生の育成

## アカデミック・リンク

「学習とコンテンツの近接」による能動的学習の促進  
構築・提供、情報基盤、人的支援、  
学習空間の統合・連携による学習の

授業との関連の重視

コンテンツ活用の重視

アクティブ・ラーニング・スペース

コンテンツ・ラボ

ティーチング・ハブ

千葉大学中期目標・計画<教育方法改善への取組、アクティブ・ラーニングの重視>

大学に対する社会的要請

- 知識基盤社会、学習社会における市民の育成
- 高等教育のグローバル化の中での質の維持・向上
- 職業人としての基礎能力、創造的人材の育成

「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日、中教審答申)

学生のニーズ

- 自由に使える学習スペース
- 文章作成力、ディスカッション能力、問題解決能力
- 英語によるコミュニケーション能力

「千葉大学の教育・研究に対する意識・満足度調査報告書」(平成21年度)

# 学生を中心にみたアカデミック・リンクのイメージ

人的支援

授業の  
コンテンツ化

オフィ  
スア  
ワー@  
AL

教材・  
教科書  
の電子  
化

動画教  
材、授  
業映像

電子  
ジャー  
ナル・e-  
books

個別的  
情報リ  
テラ  
シー教  
育

学習 コンテンツ



誰でも  
使える  
Web上  
の資源

学生  
による  
学習  
支援

場所としてのアカデミック・リンク

CURAT  
OR(機  
関リポジ  
トリ)

伝統的  
図書館  
蔵書

LMS

コンテンツ提供  
を支えるネット  
ワーク基盤

多様なニーズに対応する快適・安全な学習空間＋コンテンツ＋人的学習支援

Writing Center  
Social Learning

アクティブ・ラー  
ニング・スペ  
ース

コンテンツ

人的サポート

「コンテンツ」を活用した  
能動的学習の実現

コンテンツ・ラボ

ティーチング・ハ  
ブ

Pathfinder  
Licensing

授業のコンテンツ化

Learning Management  
System (LMS)  
Human Resource  
Development

対面型講義

## アカデミック・リンクの目標

授業の  
コンテンツ化

「学習環境とコンテンツ提供環境の融合」を基本  
さまざまな学習支援を実施



コンテンツを活用したアクティブ・ラーニングの実現



知識基盤社会においてコンテンツを十分に活用  
しながら生涯学び続けることができる人材を輩出

ゼミナール

学内外で生産  
される研究成果

多様なニーズに対応する快適・安全な学習空間＋コンテンツ＋人的学習支援

## 各プロジェクトの概要

プロジェクト名	概要
「レガシーコンテンツ再生」プロジェクト	すでに刊行されているパッケージ型メディア(図書、ビデオなど)の電子的再生と学習における利活用のための提供環境を整備する。
「デジタルコースパック」プロジェクト	自作教材、著作物の一部など、これまで教室での配布にとどまっていた授業資料の電子的パッケージ化を実現し、提供環境を整備する。
「オンラインクラスルーム」プロジェクト	授業の動画配信を中心とするe-learning環境を整備し、実施する。
「情報利用行動定点観測」プロジェクト	学生の学習行動と学習成果の関連を、情報利用行動と学習／生活空間の利用状況から継続的、横断的に検証する(調査の実施、分析)。
「参加する学習」プロジェクト	アクティブ・ラーニング・スペースでのコンテンツを利用した「学生による学生のための学習相談」を実現し、そのためのアカデミック・リンクによる体系的SA研修を構築する。
「教育力」・「学習力」向上プロジェクト	学生、教職員によるアカデミック・リンク機能についての理解と活用を促し、学習、教育にかかるスキルの向上を実現する(セミナー、シンポジウム、FDの実施)。
「新しい図書館員」プロジェクト	学習に関与する新しい図書館員概念を確立するとともに、彼らを中心に、教員、図書館員、学生の協働を基礎とする個別的学習支援モデルを構築し、実施、評価する。

学習に役  
立つコンテ  
ンツが出版  
されなくな  
る

教育に使  
いやすいコ  
ンテンツが  
少ない, 電  
子化されて  
いない

負のスパイラルに向かう危機を打破

買わない

学生に届  
かない, 学  
生からは  
見えない

# 実現すべきこと

- 多様なフォーマット(利用者が欲しい形)でのコンテンツの提供
  - 「貸す」だけではない⇒図書館に書店の併設
  - 「品切れ, 重版未定」の解消！！
- 教育, 学習における利用障壁の除去
  - 教育, 学習に安心して使える電子コンテンツ⇒著作権者との合意
- 合理性のあるビジネスモデルの構築
  - 大学にとっても, 学生にとっても出版社にとってもメリットのあるモデルを！
- 「ディスカバリー・ツール」の必要性
  - 脱OPAC⇒「何があるか」+「どのフォーマットで, どこにあるか, どのように入手できるか」といった情報の提供へ

# アカデミック・リンクは...

単なる「ラーニング・コモンズ」ではない

単なる「授業のデジタル配信」ではない

単なる「本のデジタル化」ではない

単なる「タブレット型端末の利用」ではない

単なる「Learning Management System」ではない

単なる「図書館の改革」ではない

単なる「千葉大学の教育改革」ではない

コンテンツ＋技術＋制度⇒ 改革！